

箱根駅伝

東京箱根間往復大学駅伝競走

主催 関東学生陸上競技連盟 共催 読売新聞社 特別後援 日本テレビ放送網 後援 報知新聞社



例年なら、観客で埋め尽くされる大手町スタート地点だが、今年は選手たちの足音、息遣いさえ聞こえてくる静かなスタートとなった。

©KGRR

箱根路に戻った伝統の 7年ぶり、69回目の力走



第 97 回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）が 1 月 2、3 日に開催され、専修大学は 7 年ぶり 69 回目の出場を果たした。東京・読売新聞社前～箱根・芦ノ湖間の往路 5 区間（107.5Km）、復路 5 区間（109.6Km）の合計 10 区間（217.1Km）を、選手は伝統の S を胸に走り抜いた。

新型コロナウイルス感染拡大防止のために沿道での応援はかなわなかったものの、育友会員の「頑張れ！専修」の思いは、力の限り走る選手とそれを支える部員たちに届いたに違いない。結果は往路 20 位、復路 19 位の総合 20 位に終わったが、伝統の S は見る者の心を打った。

往路

20 位
5:49' 56"

1 区

高瀬 桂（経営 2）

区間 19 位 / 1:04' 59"



©KGRR

専修大学と箱根駅伝

専修大学が箱根駅伝に初めて出場したのは 1934（昭和 9）年の第 15 回大会のこと。そして、1939（昭和 14）年、第 20 回大会で念願の総合優勝を遂げた。以来出場を重ね、過去には 37 大会連続出場も果たしている。今回で 69 回目の出場を数え、東京農業大学と並び、歴代出場回数 7 位となる。



2区 茅野 雅博 (商4)
区間 20 位 /1:11'30"



3区 金久保 遥 (経営3)
区間 20 位 /1:06'42"



4区 国増 治貴 (経営2)
区間 20 位 /1:07'30"



5区 野下 稜平 (経済1)
区間 20 位 /1:19'15"

ユニホームにスポンサーロゴ

今回からスポンサーのロゴが入られるようになった各大学のユニホーム。専大には「株式会社アマタケ」のロゴが。アマタケ相談役の甘竹秀雄さん（S 33 商経商卒）は校友会名誉会長でもあり、これまで大学へ多大な支援をしてきた。



復路 スタート

19位
5:38'30"



復路は繰り上げ一斉スタートとなった。



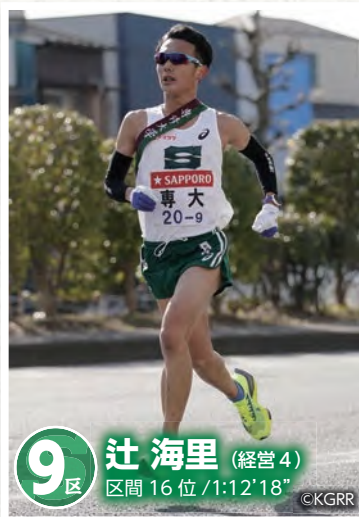
6区 南 里 樹 (経営2)
区間 16 位 /1:00'17"



7区 成島 航己 (経営2)
区間 20 位 /1:07'07"



8区 水谷 勇登 (経営1)
区間 18 位 /1:07'13"



9区 辻 海里 (経営4)
区間 16 位 /1:12'18"



10区 服部 友太 (経済3)
区間 14 位 /1:11'35"

↑感染対策も徹底された今大会。給水係はゴーグルや手袋を着用した。

→9区と10区間の鶴見中継所ではトップとの10分の差が開き、無念の繰り上げスタートとなったが、大手町のゴールまで力の限り走り抜いた。

箱根への切符をつかみ取った予選会



↑チームトップとなった
木村暁仁選手



→本戦出場を決め胴上げされる長谷川淳監督
(H19経済卒)



昨年10月17日(土)、陸上自衛隊立川駐屯地で行われた箱根駅伝予選会は新型コロナ対策のため、観客を完全にシャットアウトした周回コースでの開催だった。各校12名が走り、上位10名の合計タイムで競い、参加46校のうち予選通過はわずか10校という熾烈な戦いだ。

雨で湿った路面、アップダウンのない平坦なコースで、例年以上に高速のレース展開となった。専大は合計10時間33分59秒の10位。最後の切符を執念でつかみ取った。

予選会ではニューヒーローも誕生。1年生の木村暁仁選手(経営1)はチームトップの1時間2分44秒(全体44位)で、予選通過に貢献した。



↑第2体育寮にて体育会陸上競技部の部員たち

育友会、全国からの応援メッセージ

本来なら育友会からも多くの人が応援に駆け付けるところだが、新型コロナ対策のため会場での応援は禁止に。ならばと、全国各支部は応援メッセージをハンカチにしたため、選手へ届けた。この応援メッセージは生田9号館1階に展示された。

箱根駅伝本戦出場のために 育友会から支援

伝統校復活を目指して努力する陸上競技部の活動支援として、育友会からは16万7200円を寄付している。(48頁に関連記事)



←↑選手の出身高校のある支部のハンカチには選手の名前も書かれている

『伝統への挑戦』掲げて、重ねた努力



↑11月14日、世田谷区立大蔵運動公園陸上競技場での練習

チームスローガンは「伝統への挑戦」。週1回の1日休みの廃止や、通常メニューの前に補強トレーニングを追加するなど、箱根駅伝に向けて日々たゆまぬ努力を行ってきた。



↑長谷川淳監督

卒業する選手たち、4年間の思い

箱根駅伝本戦後の1月13日、陸上競技部のホームページには引退した4年生たちのコメントが掲載された。

石井 翔琉 (経済4)

4年間いい経験ができました。今後は新たな夢に向かって精進します。

市来原 潤 (商4)

4年間あつという間でした！ 大好きないちごのショートケーキを食べ終わった時くらいあつという間でした。この4年間目標であった箱根駅伝に個人としては出場できませんでしたが、大学としてチームとして箱根駅伝に名を刻めたことは一生の宝物だと思います。この4年間で出会えた監督・コーチ、先輩方、同期、後輩、マネージャーにはほんとに感謝しかありません。来年からは地元に戻り専修大学陸上部OBとして後輩たちを全力で応援していきたいと思っています！！

大石 亮 (経営4)

4年間振り返ってみて、殆どが苦しかった思い出です。ですが、専修大学で経験した全てがこれから経験する辛くて苦しい出来事を乗り越えるための力になると思います。4年間ありがとうございました。

鹿嶋 則宏 (経済4)

仲間に恵まれた大学生活でした。死ぬまでこの4年間は忘れません。ありがとうございました。

茅野 雅博 (商4)

4年を振り返ってきつい時も楽しい時もこのチームだからこそ乗り越えられて箱根駅伝出場を決めることができたと思っています。卒業後は、一般ランナーとして陸上を楽しもうと思っています。ほんとに4年間ありがとうございました。

小林 純 (経営4)

4年間ありがとうございました！今後はIT企業に勤めながら、専修大学の応援をさせていただきます。

辻 海里 (経営4)

4年を振り返ると多くのことを経験できたと思います。入学当初は練習について行くことができず苦戦しましたが、練習を継続することで競技力を向上させることができました。4年間で継続することの大切さを学びました。今後は競技を継続せず、一般企業に就職します。陸上競技部での経験を生かして頑張ります。4年間ありがとうございました。

森島 嘉大 (文4)

4年間、最後までまともな結果を残すことができず悔しい気持ちでいっぱいです。しかし、苦業を共にしてきた同期や後輩たちにここまで一緒にやってきてくれたことに感謝しています。来年からは社会人としてゼロからのスタートとなりますが、残りの人生をこれまで学んできたことを生かして過ごしていきたいです。

箱根駅伝をより楽しむ図書館展示

12月7日～1月23日まで図書館本館、Knowledge Baseでは、「おうちで応援！たすきでつながる箱根駅伝」と題した企画展を開催。箱根駅伝に関連する書籍の紹介のほか、箱根駅伝のコースと重なる各所を歌川広重の東海道五十三次絵巻と対比するコーナーなど、趣向を凝らした展示が並んだ。

